

実践記録

168

シリーズ



柏崎市のコミュニティセンターと公民館

柏崎北条地区コミュニティ振興協議会 主事 戸田 洋子

1. コミュニティセンター及び公民館設立の経緯

柏崎市のコミュニティセンターは、市内の中鯖石地区が自治省のモデルコミュニティ地区に指定され、昭和47年度に「中鯖石地区コミュニティセンター兼中鯖石公民館」が建設された。以来、全市に順次整備され、現在は市内に31のコミュニティセンターがある。

北条地区は、昭和51年度に「北条コミュニティセンター兼北条公民館」として市内では4番目に建設され、今年度で創立35年目を迎えた。

一つの建物に2枚の看板（コミュニティと公民館）が掲げられるということが柏崎最大の特徴である。

○コミュニティ柏崎方式：コミュニティセンター兼公民館が整備される時の基本原則をいう。

範囲：小学校または中学校区の第一次生活圏域である。
施設：公立民営、市が建設して管理・運営は地域の責任で行う。
活動：住民主体の活動である。住民が主体となって地域の課題を解決していく活動

2. 生涯学習における柏崎コミュニティ方式

コミュニティ柏崎方式は、建設される時の原則論・設置基準であって、公民館活動について触れられていなかった。公民館大会やコミュニティづくり研究会などで、「公民館のコミュニティづくり」に果たす役割として、①公民館は、コミュニティづくりにおける社会教育活動の中核、②公民館は、コミュニティづくりにおける住民学習活動の推進役、③公民館は、コミュニティづくりにおける公と民を結ぶパイプ役等と言われてきたが今ひとつ具体的に分かりにくかった。

↓平成7年度

公民館とコミュニティが一つの館に同居する柏崎市独自のスタイルは「地域をよりよくするという共通の目的に、お互いがパートナーシップをとらなければならない」。このスタイルの確立こそ市民生活に生涯学習を浸透させるものとして「公民館とコミュニティの連環」が提唱された。

地区民は生きがいを求め、地域や生活をよくするために公民館で学習し、その学習成果をコミュニティ（地域）活動に生かし、コミュニティ（地域）活動や生活課題はそれを解決するために学習する」という連環を生涯学習における柏崎コミュニティ方式という。

公民館は住民の学習の場であり、コミュニティセンターは地域活動・地域づくりの拠点である。生涯学習社会では、公民館の学習の成果は地域・社会還元されるようコミュニティ活動に生かすことが大切である。一方、コミュニティ活動や地域づくりでは地域や生活の課題（地域で困っていること）を掘り起こし、その課題解決に向けて公民館で学習することが大切である。公民館とコミュニティは常にサイクリングし、より相乗効果が高まるのである。ここに、公民館とコミュニティを同一施設に設置した最大のねらいがある。

この連環は平成15年度のコミュニティ施策が導入されるまで生涯学習課の基本方針に位置付けられてきた。

3. 新しいコミュニティ施策の導入（公民館とコミュニティの一本化：平成15年度）

市は平成15年度から、分かりにくい公民館とコミュニティを統合し、一本化した。

公民館とコミュニティの連環の手法は、地域づくりを促進する大きな手法であり、この連環なくして生涯学習社会の実現はないと信じてきたが、公民館の看板は外され、コミュニティセンターの看板だけが掲げられている。

4. 北条地区のまちづくり

(1) 北条地区コミュニティ振興協議会の組織・運営・活動について

①組織：全町内推薦委員、サークル・団体・各種機関の代表、委嘱委員等で委員会を構成し、執行機関の役員を選出する。

②経費：地区内の全戸がコミュニティ会費を出し合う。（一戸年間会費3,600円）

市の補助：職員3人の報酬、光熱水費及び電話料の6割、警備清掃委託の補助、事業費の一定額（上限65万円）

③活動：住民が主体となって地域の課題を解決してゆく活動である。

地域づくりの活動・学習育成活動・体育活動・文化・サークル活動・広報活動・健康・福祉活動、安心・安全活動・その他の活動

(2) 北条のまちづくりのスタンス＝公民館とコミュニティの連環によるまちづくり

地域づくりとは地域の課題を解決していくことにあり、公民館の学級・講座等で教育的な課題解決法で学び、その学習成果を生かしてコミュニティ活動として実践していくという「公民館とコミュニティの連環」を基本に取り組んできた。

公民館の学びと地域づくりが一体化した代表的事業として、耕地荒廃の歯止めに取り組んだ山うどの人工栽培、郷土の伝承料理の掘り起こしと冊子化、ギンナンの特産品化、北条いにしえロードの創出、音楽劇「長島の久遠い流れ」の創作・上演、人材バンク「北条地区助け合いセンター」の開設など数多くある。

(3) 北条地区のまちづくり事業・講座

①平成13年度以降の北条コミュニティの主な事業・講座

ア. 人材バンク イ. コミュニティ「暖暖」 ウ. 復興デザイン エ. 北条つららなす オ. 防災グリーンツーリズム カ. ガイドボランティア養成講座 キ. 大字対抗炊出訓練 ク. 防災マップ ケ. 長島いにしえロード コ. 地域間交流

②平成13年度以降コミュニティ連環によるまちづくり講座

ア. 北条人材バンク講座 イ. かあちゃんたちの学習塾 ウ. ふるさと・ふれあい・エプロン講座 エ. 年表で綴るふるさとの足跡 オ. 北条毛利氏郷土史講座 カ. 北条毛利いにしえロード養成講座 キ. 歴史ガイドボランティア養成講座 ク. 長島いにしえロード創出事業

（学習プログラム立案の際の要点）

ア 学習のねらい：何のために学ぶのかということをしっかり位置づける。

イ 学習目標：学んでどうなりたいか、どこまで高まりたいか、どのような結果を得たいかが学習目標である。

とかく、個々の学習内容を先に考えがちであるが、ねらいと目標がしっかり位置づけられればそれを学ぶ内容はたくさんある。あとはそれをどのように組み立てられるかで学習プログラムは完成する。

ウ 学級、講座の名称：的を射た、住民が参加したくなるようなネーミングを付ける。

(4) 公民館職員として教えられてきたこと

○住民を主体者として接し、住民役の学習活動がなされるかどうか

○その学びの成果を生かす場面を設定してやれるかどうか
：個人の学習を地域づくりにつなげるプロデュースの能力を身につける。

○住民が自主的に学習活動や地域活動を進めていくことができるような助言・支援してやることができるかどうか

：住民が主体の学習・活動をコーディネートする能力を身につける。

○公民館における人づくりとは、自分たちの地域や社会をよりよくしていくことを考えたり、行動していける人を、活動を通じて輩出すること。

○公民館事業は職員自身が感動できなければ住民を感動させることはできない。

○自ら学ぶ姿勢のみ自らを高める。